

●今月のことば●



浄土真宗本願寺派 佐竹真城

煩惱にまなこさへられて

攝取の光明みざれども

大悲ものうきことなくて

つねにわが身をてらすなり

(「高僧和讃」『註釈版聖典』五九五頁)

(現代語訳)

煩惱という色眼鏡をかけて物事を見て いる
私たちは、阿弥陀如来の救いのおはたらき
に気付くことができませんが、私を救おう
としてくださいる広大な慈悲は、怠ることな
くこの私に向けられているのです。

私たち は煩惱という色眼鏡をかけているため、ものごとの
ありのまま、本当の姿を見ることができません。言い換えれば、子どもたちが内に秘めた本質に気づかずに、勝手に「こ
の子はこういう子」と決めつけてしまったのです。しかし、
どの子もみな、置かれた環境や外から受ける刺激によって、
とりどりの芽を出す種(可能性)を持っています。あたたか
くやさしい眼をもつて一人ひとりと真摯に向き合い、その種
にさまざまな角度から愛情という水をあげて、大切に育んで
ゆきたいのです。

子どもたちを見ていますと、実にいろいろな子がおります。
かけっこが速い子、お遊戯が上手な子……しかし、なかには
「目立たない子だなあ」と特徴をつかみきれない子もいます。
詩人の金子みすゞさんは「星とたんぽぽ」という詩を書か
っていますが、その中に「見えぬけれどもあるんだよ 見
えぬものもあるんだよ」(新装版『金子みすゞ全集』II.
一〇八頁)というフレーズが出てきます。昼には見ることの
できない星は、夜になればキラキラと輝きを現します。星は
常に同じ場所に存在しております。夜を縁として私たちにその姿
を知らせてくれます。枯れて春をまつタンポポは、春になる
と綺麗な花を咲かせます。タンポポは枯れてしまつた後も土
のなかで根を張つて一生懸命に生きており、春を縁として私
たちにその姿を知らせてくれます。子どもたちも同じではな
いでしょうか。

私たち は煩惱という色眼鏡をかけているため、ものごとの
ありのまま、本当の姿を見ることができません。言い換えれば、子どもたちが内に秘めた本質に気づかずに、勝手に「こ
の子はこういう子」と決めつけてしまったのです。しかし、
どの子もみな、置かれた環境や外から受ける刺激によって、
とりどりの芽を出す種(可能性)を持っています。あたたか
くやさしい眼をもつて一人ひとりと真摯に向き合い、その種
にさまざまな角度から愛情という水をあげて、大切に育んで
ゆきたいのです。